

「美濃の虻」として恐れられた斎藤道三は、その冷酷な戦術で有名だった。1547 年の加納口の戦いで織田信秀（1510－1551）を敗北させたことで、彼は全国的に認知された。戦いの後、道三は娘濃姫（1533～35－1612）を信秀の息子織田信長（1534－ 1582）に嫁がせ、和平協定をなした。

1556 年ごろ、道三は、誰が彼の後継者になるかの憶測に囲まれているのに気づいた。噂では、道三の長子の斎藤義龍（1527-1561）は彼の本当の息子ではないと言われ、他の人々は、道三は後継者に彼より才能のある義理の息子、織田信長を考えていると話した。斎藤義龍は自分の出生と道三の思惑に疑問を感じ、正しい相続人としての地位を確保する決心した義龍は、1556 年の長良川の戦いで、父親を襲撃した。

義龍は斎藤氏の大多数を自分の力で結集させ、62 歳の父親道三を一方的な戦いで敗北させ殺害した。信長は義父を助けるために増援を派遣したが、戦いがすでに終わった後に到着した。斎藤道三の頭部は戦闘中に奪われ、岐阜城の北にある崇福寺の近くにある道三塚に埋葬された。